

令和3年度事業報告

{ 自 令和3年1月1日 }
{ 至 令和3年12月31日 }

一般社団法人 日本養蜂協会

I 会議

1. 総会

第80回通常総会

日 時：令和3年2月24日（水）13:00～14:30

場 所：東京都千代田区大手町 KKRホテル東京「孔雀の間」

議 長：内田憲男（神奈川県）

議事録署名人：斉藤直也（北海道）、長沼久雄（福島県）

出席議決権数：総数47会員のうち46会員（書面出席38団体、委任出席1団体）

報告事項

- (1) 令和2年度事業報告に関する件
- (2) 令和3年度事業計画に関する件
- (3) 令和3年度収支予算に関する件

議事

第1号議案：令和2年度貸借対照表及び正味財産増減計算書承認の件

第2号議案：令和3年度会費の賦課方式及び基準に関する件

第3号議案：理事及び監事の選任に関する件

2. 理事会及び委員会

(1) 第272回理事会

日 時：令和3年2月2日（火）13:30～16:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館2階会議室

議 長：羽佐田康幸

議事録署名人：羽佐田康幸、柳下浩幸、埴田光文、佐野友治、中村公光

出席者数：12名

議 事

①第271回理事会議事録の確認について

②第80回通常総会等の運営について

- ・総会提出議案について
- ・公益目的支出計画実施報告（案）について
- ・総会の運営について（案）
- ・今後の会議日程について（案）

③その他

(2) 第 273 回理事会

日 時：令和 3 年 2 月 24 日（水）15:00～16:00

場 所：東京都千代田区大手町 KKR ホテル東京「鳳凰の間」

議 長：羽佐田康幸

議事録署名人：羽佐田康幸、柳下浩幸、長沼久雄、佐野友治、枝次秀樹

出席者数：14 名

議 事

- ①第 272 回理事会議事録の確認について
- ②会長、副会長及び常務理事の選定について
- ③今後の会議日程について
- ④その他

(3) 第 274 回理事会

日 時：令和 3 年 4 月 9 日（金）10:00～15:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館 2 階会議室

議 長：羽佐田康幸

議事録署名人：羽佐田康幸、柳下浩幸、長沼久雄、佐野友治、枝次秀樹

出席者数：13 名

議 事

- ①第 273 回理事会議事録の確認について
- ②令和 3 年度事業の具体的進め方について
- ③その他

(4) 第 275 回理事会（新型コロナウイルス感染防止のため書面開催）

期 間：令和 3 年 9 月

議 長：羽佐田康幸

議案配布役員：16 名

議 事

- ①第 274 回理事会議事録の確認について
- ②令和 3 年度事業の進捗状況について
- ③令和 3 年事業の中間監査について
- ④その他

(5) 第 1 委員会（第 1 回）

日 時：令和 3 年 5 月 20 日（木）17:00～18:00

（新型コロナウイルス感染防止のためウェブにより開催）

出席者：塚本隆之、斉藤直也、正札 博、水谷俊介、西岡千年、羽佐田康幸、
柳下浩幸、谷口貴春

議 事：養蜂振興法に関する問題点の解決への検討

(6) 第1委員会 (第2回)

日 時：令和3年6月10日(木) 17:00～18:30

(新型コロナウイルス感染防止のためウェブにより開催)

出席者：塚本隆之、斉藤直也、正札 博、水谷俊介、西岡千年、羽佐田康幸、
柳下浩幸、谷口貴春

議 事：養蜂振興法に関する問題点の解決への検討

(7) 第1委員会 (第3回)

日 時：令和3年7月8日(木) 17:00～19:00

(新型コロナウイルス感染防止のためウェブにより開催)

出席者：塚本隆之、斉藤直也、正札 博、水谷俊介、西岡千年、羽佐田康幸、
柳下浩幸、谷口貴春

議 事：養蜂振興法に関する問題点の解決への検討

(8) 第1委員会 (第4回)

日 時：令和3年7月15日(木) 17:00～19:00

(新型コロナウイルス感染防止のためウェブにより開催)

出席者：塚本隆之、斉藤直也、正札 博、水谷俊介、西岡千年、羽佐田康幸、
柳下浩幸、沖 浩幸、谷口貴春

議 事：養蜂振興法に関する問題点の解決への検討

(9) 第1委員会 (第5回)

日 時：令和3年8月6日(金) 17:00～20:00

(新型コロナウイルス感染防止のためウェブにより開催)

出席者：塚本隆之、斉藤直也、正札 博、水谷俊介、西岡千年、羽佐田康幸、
柳下浩幸、沖 浩幸、谷口貴春

議 事：養蜂振興法に関する問題点の解決への検討

(10) 第1委員会 (第6回)

日 時：令和3年8月20日(木) 17:00～18:30

(新型コロナウイルス感染防止のためウェブにより開催)

出席者：塚本隆之、正札 博、水谷俊介、西岡千年、羽佐田康幸、柳下浩幸、
山時丈昌、沖 浩幸、谷口貴春

議 事：養蜂振興法に関する問題点の解決への検討

(11) 第1委員会（第7回）

日 時：令和3年10月1日（金）17:00～18:30

（新型コロナウイルス感染防止のためウェブにより開催）

出席者：塚本隆之、斉藤直也、正札 博、水谷俊介、西岡千年、羽佐田康幸、
柳下浩幸、山時丈昌、沖 浩幸、谷口貴春

議 事：養蜂振興法に関する問題点の解決への検討

(12) 第1委員会（第8回）

日 時：令和3年12月1日（水）17:00～19:30

（新型コロナウイルス感染防止のためウェブにより開催）

出席者：塚本隆之、斉藤直也、正札 博、水谷俊介、西岡千年、羽佐田康幸、
柳下浩幸、山時丈昌、沖 浩幸、谷口貴春

議 事：養蜂振興法に関する問題点の解決への検討

(13) 第276回理事会

日 時：令和3年12月22日（水）10:00～15:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館2階会議室

議 長：羽佐田康幸

議事録署名人：羽佐田康幸、柳下浩幸、長沼久雄、佐野友治、枝次秀樹

出席者数：16名

議 事

①第275回理事会議事録の確認について

②令和3年度事業の進捗状況について

③令和4年度事業計画（案）及び令和4年度収支予算（案）について

④その他

3. 監事監査

(1) 令和2年決算定期監査（令和2年1月1日～令和2年12月31日）

（新型コロナウイルス感染防止のため書面開催）

期 間：令和3年1月21日（木）～1月25日（月）

書面監査：（監 事） 埴田光文、佐野友治、中村公光

(2) 令和3年中間定期監査（令和3年1月1日～令和3年6月30日）

日 時：令和3年7月20日（火）13:00～16:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館2階会議室

出席者：（監 事）長沼久雄、枝次秀樹

（執行部）副会長 柳下浩幸

（事務局）常務理事 山時丈昌、事務局長 沖 浩幸、課長 競まゆみ

主任 谷口貴春、主任 喜多佑丞

（税理士）小林昌孝

II 補助事業

1. 国庫補助事業 養蜂等振興推進事業

(1) 令和2年度養蜂等振興強化推進事業（全国公募事業）

①【青森】養蜂技術指導講習会 ※東京都内からリモート講習会

日 時：令和3年1月28日（金）14:00～16:00

場 所：青森県八戸市 きざん八戸

参加者：蜜蜂衛生・飼養管理等の指導者等（行政関係者及び日蜂協会会員等）

参加者 34名、うち聴講者 29名

講 義：1. 座学講義1「ダニが原因となる疾病に関する衛生管理技術」

講師＝玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

2. 座学講義2「養蜂における衛生管理～消毒技術」

講師＝玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

3. 情報提供1「はちみつ製造におけるHACCP導入手引書」と「蜂蜜の採蜜衛生管理台帳」

情報提供者：一般社団法人日本養蜂協会

4. 情報提供2「ダニ駆除剤 チモバル」

情報提供者：アристаヘルスアンドニュートリションサイエンス

5. 質疑応答

※令和3年1月から2月に開催予定であった東京都、三重県、熊本県においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため講習会開催を中止した。

②第3回養蜂技術指導推進委員会（新型コロナウイルス感染防止のため書面開催）

日 時：令和3年3月12日付送付

委 員：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域 再雇用研究員 木村 澄（委員長）

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

国立大学法人筑波大学生命環境系 講師 松山 茂

福岡県中央家畜保健衛生所 技術主査 浅田研一

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域 研究員 荻原麻理

東京都養蜂協会会員兼ビーハイブジャパン 代表取締役獣医師 渡辺 宏

アристаヘルスアンドニュートリションサイエンス株式会社 崎山拓治

青森県農林水産部畜産課 技師 竹内紫穂

山形県農林水産部畜産振興課 課長補佐 高橋斉史

東京都産業労働局農林水産部農業振興課畜産振興担当 主任 田村哲生

三重県農林水産部畜産課畜産振興班 主任 森 芳広

広島県農林水産局畜産課 主任 小野恵理子

熊本県農林水産部生産経営局畜産課 参事 佐田千絵美
鹿児島県農政部畜産課中小家畜係 主事 山下花菜実
愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸
神奈川県養蜂組合 副組合長 柳下浩幸
青森県養蜂協会 会長 鳥谷部栄作
山形県養蜂協会 会長 鈴木新栄
東京都養蜂協会 理事 原田誠一郎
三重県養蜂協会 会長 水谷俊介
広島県養蜂組合 組合長 升田幸司
熊本県養蜂組合 組合長 西岡千年
鹿児島県養蜂協会 会長 加藤 栄

事務局：

(一社) 日本養蜂協会 常務理事 山時丈昌

議 事：

令和2年度ダニ被害実態調査報告

令和2年度養蜂技術指導講習会

令和2年度養蜂等振興強化推進事業（全国公募事業）の成果

(2) 令和3年度養蜂等振興強化推進事業（全国公募事業）

①第1回養蜂等振興強化推進事業推進委員会

日 時：令和3年6月24日（木）13:30～15:30

場 所：リモート会議（主催：東京都中央区 日本養蜂協会）

委 員：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

上級研究員 芳山三喜雄

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

主任研究員 荻原麻理

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

農業環境研究部門 農業生態系管理研究領域

生物多様性保全・利用グループ 上級研究員 前田太郎

福岡県中央家畜保健衛生所 技術主査 浅田研一〈欠席〉

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

玉川大学農学部生産農学科 教授 佐々木謙

玉川大学農学部生産農学科 教授 浅田真一

玉川大学学術研究所ミツバチ科学研究センター 教授 佐々木哲彦

国立大学法人筑波大学生命環境系 助教 横井智之

国立大学法人筑波大学生命環境系 講師 松山 茂
国立大学法人岩手大学森林科学科 教授 真坂一彦〈欠席〉
国立大学法人東京農工大学農学部 准教授 佐藤俊幸
国立大学法人広島大学先進理工系科学研究科 教授 石井 抱
国立大学法人広島大学デジタルものづくり教育研究センター

特任助教 島崎航平

アジア航測株式会社 国土保全コンサルタント事業部

環境部総合環境課 係長 舘野真澄

アジア航測株式会社 国土保全コンサルタント事業部

環境部総合環境課 技師 安田正次

アピ株式会社 蜂産品特販部 ミツバチ課長 今井弘一

片倉工業株式会社 片倉養蜂場 場長 中村文男

アリスライフサイエンス株式会社 マーケティング部

プロダクトマネージャー（送粉昆虫担当） 光畑雅宏

株式会社アドダイス CEO 伊東大輔

岐阜県立森林文化アカデミー 客員教授 小田忠信

株式会社ビーハイブジャパン 代表取締役 渡辺 宏

玉川大学 名誉教授 佐々木正己

埼玉県養蜂協会 技術顧問 干場英弘

愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸

神奈川県養蜂組合 副組合長 柳下浩幸

埼玉県養蜂協会 前会長 鈴木晴雄〈欠席〉

オブザーバー：

公益社団法人国際農林業協働協会（JAICAF） 調査役 西山亜希代

公益社団法人国際農林業協働協会（JAICAF） 主任研究員 森麻衣子

公益社団法人国際農林業協働協会（JAICAF） 技術参与 松原弘明

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 山時文昌

一般社団法人日本養蜂協会 主任 谷口貴春

一般社団法人日本養蜂協会 主任 喜多佑丞

一般社団法人日本養蜂協会 主事 宮本 宏

一般社団法人日本養蜂協会 職員 岩橋康太

議 事：

令和3年度養蜂等振興強化推進事業（全国公募事業）について

②第1回炭酸ガスによるダニ防除技術実用化事業担当者委員会

日 時：令和3年7月6日（火）15:00～16:00

場 所：リモート会議（主催：東京都中央区 日本養蜂協会）

委員：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

主任研究員 荻原麻理

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

上級研究員 芳山三喜雄

福岡県中央家畜保健衛生所 技術主査 浅田研一

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純〈欠席〉

オブザーバー：

日本液炭株式会社 技術開発本部 開発部 後出 秀聡

日本液炭株式会社 事業統括本部 特販部 課長 佐々木 彰一

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 主任 喜多佑丞

議 事：

炭酸ガスによるダニ防除技術実用化試験について

③第1回ダニが産生または知覚する情報化学物質特定試験事業担当者委員会

日 時：令和3年7月6日（火）16:00～17:00

場 所：リモート会議（主催：東京都中央区 日本養蜂協会）

委員：

国立大学法人筑波大学生命環境系 講師 松山 茂

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

上級研究員 芳山三喜雄

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

主任研究員 荻原麻理

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純〈欠席〉

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 主任 喜多佑丞

議 事：

ダニが産生または知覚する情報化学物質特定試験について

④第1回総合的病害虫管理技術構築促進事業担当者委員会

日 時：令和3年7月30日（金）15:00～16:00

場 所：リモート会議（主催：東京都中央区 日本養蜂協会）

委員：

アリスライフサイエンス株式会社 マーケティング部
プロダクトマネージャー（送粉昆虫担当） 光畑雅宏
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
農業環境研究部門 農業生態系管理研究領域生物多様性保全・利用グループ
上級研究員 前田太郎

国立大学法人筑波大学生命環境系 講師 松山 茂
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ
上級研究員 芳山三喜雄

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ
主任研究員 荻原麻理

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純〈欠席〉

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 山時文昌
一般社団法人日本養蜂協会 事務局長 沖 浩幸
一般社団法人日本養蜂協会 主任 喜多佑丞

議 事：

総合的病害虫管理技術構築促進事業における研究試験について

⑤第1回蜂群の低温管理による産卵停止技術の検証担当者委員会

日 時：令和3年8月3日（火）13:30～15:30

場 所：リモート会議（主催：東京都中央区 日本養蜂協会）

委 員：

玉川大学農学部生産農学科 教授 佐々木 謙
玉川大学農学部生産農学科 教授 浅田真一
玉川大学学術研究所ミツバチ科学研究センター 教授 佐々木哲彦
国立大学法人東京農工大学農学部 准教授 佐藤俊幸
アピ株式会社 蜂産品特販部 ミツバチ課長 今井弘一〈欠席〉
片倉工業株式会社 片倉養蜂場 場長 中村文男
愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 山時文昌
一般社団法人日本養蜂協会 事務局長 沖 浩幸
一般社団法人日本養蜂協会 主任 谷口貴春
一般社団法人日本養蜂協会 主事 宮本 宏

議 事：

令和3年度蜂群の低温管理による産卵停止技術の検証事業について

令和3年度の試験内容について説明

⑥第1回養蜂アプリ開発事業担当者委員会

日時：令和3年8月16日（月）13:30～15:30

場所：リモート会議（主催：東京都中央区 日本養蜂協会）

委員：

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

玉川大学 名誉教授 佐々木正己

埼玉県養蜂協会 技術顧問 干場英弘

愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸

埼玉県養蜂協会 前会長 鈴木晴雄

オブザーバー：

公益社団法人国際農林業協働協会（JAICAF） 調査役 西山亜希代

公益社団法人国際農林業協働協会（JAICAF） 主任研究員 森麻衣子

公益社団法人国際農林業協働協会（JAICAF） 技術参与 松原弘明

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 事務局長 沖 浩幸

一般社団法人日本養蜂協会 職員 岩橋康太

議 事：

養蜂アプリ等開発事業について

養蜂アプリの構築について

⑦第1回蜂群適正配置に向けたマッピング手法の開発担当者委員会

日時：令和3年8月27日（金）13:30～15:30

場所：リモート会議（主催：東京都中央区 日本養蜂協会）

委員：

国立大学法人岩手大学森林科学科 教授 真坂一彦

岐阜県立森林文化アカデミー 客員教授 小田忠信

アジア航測株式会社 国土保全コンサルタント事業部

環境部総合環境課 係長 舘野真澄

アジア航測株式会社 国土保全コンサルタント事業部

環境部総合環境課 技師 安田正次〈欠席〉

愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸

神奈川県養蜂組合 副組合長 柳下浩幸

岩手県養蜂組合 組合長 土屋 勲〈欠席〉

オブザーバー：

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

アジア航測株式会社 国土保全コンサルタント事業部

環境部総合環境課 課長 染矢 貴
アジア航測株式会社 国土保全コンサルタント事業部
環境部総合環境課 技師 本部 星

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 山時丈昌
一般社団法人日本養蜂協会 事務局長 沖 浩幸
一般社団法人日本養蜂協会 主任 谷口貴春

議 事：

令和 3 年度蜂群の蜂群適正配置に向けたマッピング手法の開発事業について
(全体概要)

令和 3 年度事業の実施計画等詳細について説明

⑧第 1 回ギ酸及びシュウ酸実用化促進事業担当者委員会

日 時：令和 3 年 9 月 22 日（水）14:00～15:00

場 所：リモート会議（主催：東京都中央区 日本養蜂協会）

委 員：

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

上級研究員 芳山三喜雄

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

主任研究員 荻原麻理

株式会社ビーハイブジャパン 代表取締役 渡辺 宏

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 山時丈昌
一般社団法人日本養蜂協会 事務局長 沖 浩幸
一般社団法人日本養蜂協会 主任 喜多佑丞

議 事：

ギ酸及びシュウ酸等実用化促進事業について

⑨第 1 回蜂群適正配置に向けたマッピング手法の開発現地調査

日 時：令和 3 年 9 月 30 日（木）

場 所：岩手県二戸市

調査員：

アジア航測株式会社 国土保全コンサルタント事業部

環境部総合環境課 係長 舘野真澄

環境部総合環境課 技師 本部 星

協力者：

岩手県養蜂組合 折戸 斉

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 事務局長 沖 浩幸

一般社団法人日本養蜂協会 主任 谷口貴春

議 事：

岩手県二戸市における蜜源等調査

⑩第2回蜂群適正配置に向けたマッピング手法の開発現地調査

日 時：令和3年10月26日（火）

場 所：岩手県二戸市

調査員：

アジア航測株式会社 国土保全コンサルタント事業部

環境部総合環境課 係長 舘野真澄

環境部総合環境課 技師 本部 星

環境部総合環境課 技師 岡田実憲

国土保全技術部河川・海岸防災課 技師 中村光一

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 主任 谷口貴春

議 事：

岩手県二戸市においてドローンによる蜜源調査

⑪【三重】養蜂技術指導講習会 ※東京都内からリモート講習会

日 時：令和3年11月24日（水）14:00～16:30

場 所：三重県津市 三重県文化センター

参加者：蜜蜂衛生・飼養管理等の指導者等（行政関係者及び日蜂協会員等）

参加者72名、うち聴講者67名

講 義：1. 座学講義1「ダニが原因となる疾病に関する衛生管理技術」

講師＝国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域

スマート畜産施設グループ（養蜂担当）再雇用研究員

木村 澄

2. 座学講義2「養蜂における衛生管理～消毒技術」

講師＝国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域

スマート畜産施設グループ（養蜂担当）再雇用研究員

木村 澄

3. 情報提供1「ダニ駆除剤 チモバール」

情報提供者：アリスライフサイエンス株式会社

4. 情報提供 2 「令和3年度養蜂等振興強化推進事業（全国公募事業）について」

報提供者：一般社団法人日本養蜂協会

5. 質疑応答

⑫第 1 回高速カメラによるミツバチ行動解析、IoT技術を利用した効率的な飼養管理、マルチセンサーを用いた蜂群状態変動解析 合同委員会

日 時：令和3年 11 月 25 日（木）13:30～16:30

場 所：リモート会議（主催：東京都中央区 日本養蜂協会）

委 員：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

上級研究員 芳山三喜雄

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

主任研究員 荻原麻理

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純〈欠席〉

国立大学法人筑波大学生命環境系 講師 松山 茂

国立大学法人広島大学先進理工系科学研究科 教授 石井 抱

国立大学法人広島大学デジタルものづくり教育研究センター

特任助教 島崎航平

株式会社アドダイス CEO 伊東大輔

愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸

オブザーバー：

株式会社アドダイス IoT技術開発主任 沖 正昭

株式会社アドダイス データ解析リーダー 高山真美

株式会社アドダイス 総務 木村奈央子

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 山時文昌

一般社団法人日本養蜂協会 事務局長 沖 浩幸

一般社団法人日本養蜂協会 主任 谷口貴春

一般社団法人日本養蜂協会 主事 宮本 宏

議 事：

令和3年度高速カメラによるミツバチ行動解析事業についての進捗状況

令和3年度IoT技術を利用した効率的な飼養管理事業についての進捗状況

マルチセンサーを用いた蜂群状態変動解析事業についての進捗状況

⑬第2回炭酸ガスによるダニ防除技術実用化事業担当者委員会

日時：令和3年12月2日（木）14:00～15:00

場所：リモート会議（主催：東京都中央区 日本養蜂協会）

委員：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

上級研究員 芳山三喜雄

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

主任研究員 荻原麻理

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

福岡県中央家畜保健衛生所 技術主査 浅田研一

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 山時文昌

一般社団法人日本養蜂協会 事務局長 沖 浩幸

一般社団法人日本養蜂協会 主任 喜多佑丞

議 事：

炭酸ガスによるダニ防除技術実用化試験の中間報告について

⑭第2回ダニが産生または知覚する情報化学物質特定試験事業担当者委員会

日時：令和3年12月2日（木）15:00～17:00

場所：リモート会議（主催：東京都中央区 日本養蜂協会）

委員：

国立大学法人筑波大学生命環境系 講師 松山 茂

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

上級研究員 芳山三喜雄

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

主任研究員 荻原麻理

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 山時文昌

一般社団法人日本養蜂協会 事務局長 沖 浩幸

一般社団法人日本養蜂協会 主任 喜多佑丞

議 事：

ダニが産生または知覚する情報化学物質特定試験の中間報告について

⑮第2回蜂群適正配置に向けたマッピング手法の開発担当者委員会

日時：令和3年12月7日（火）10:30～12:00

場所：リモート会議（主催：東京都中央区 日本養蜂協会）

委員：

国立大学法人岩手大学森林科学科 教授 真坂一彦

岐阜県立森林文化アカデミー 客員教授 小田忠信

アジア航測株式会社 国土保全コンサルタント事業部

環境部総合環境課 係長 舘野真澄

アジア航測株式会社 国土保全コンサルタント事業部

環境部総合環境課 技師 安田正次

愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸

神奈川県養蜂組合 副組合長 柳下浩幸

岩手県養蜂組合 組合長 土屋 勲

オブザーバー：

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

アジア航測株式会社 国土保全コンサルタント事業部

環境部総合環境課 技師 本部 星

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 山時文昌

一般社団法人日本養蜂協会 事務局長 沖 浩幸

一般社団法人日本養蜂協会 主任 谷口貴春

議 事：

令和3年度蜂群の蜂群適正配置に向けたマッピング手法の開発事業進捗状況等
について

⑯第2回総合的病虫害管理技術構築促進事業担当者委員会

日時：令和3年12月7日（火）15:00～16:00

場所：リモート会議（主催：東京都中央区 日本養蜂協会）

委員：

アリスタライフサイエンス株式会社 マーケティング部

プロダクトマネージャー（送粉昆虫担当） 光畑雅宏

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

農業環境研究部門 農業生態系管理研究領域生物多様性保全・利用グループ

上級研究員 前田太郎

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

上級研究員 芳山三喜雄

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 高度飼養技術研究領域・スマート畜産施設グループ

主任研究員 荻原麻理

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

国立大学法人筑波大学生命環境系 講師 松山 茂〈欠席〉

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 山時文昌

一般社団法人日本養蜂協会 事務局長 沖 浩幸

一般社団法人日本養蜂協会 主任 喜多佑丞

議 事：

総合的病害虫管理技術構築促進事業における研究の中間報告について

⑰【熊本】養蜂技術指導講習会 ※東京都内からリモート講習会

日 時：令和3年12月15日（水）14:00～16:30

場 所：熊本県熊本市 ホテル熊本テルサ 会場：たい樹北

参加者：蜜蜂衛生・飼養管理等の指導者等（行政関係者及び日蜂協会会員等）

参加者 99 名、うち聴講者 93 名

講 義：1. 座学講義1「ダニが原因となる疾病に関する衛生管理技術」

講師＝玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

2. 座学講義2「養蜂における衛生管理～消毒技術」

講師＝玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

3. 情報提供1「ダニ駆除剤 チモバール」

情報提供者：アリスタライフサイエンス株式会社

4. 情報提供2「令和3年度養蜂等振興強化推進事業（全国公募事業）について」

報提供者：一般社団法人日本養蜂協会

5. 質疑応答

2. 日本中央競馬会 畜産振興事業（JRA事業）

（1）令和2年度蜜蜂のダニ寄生とウイルス感染率の実態調査事業

①第2回蜜蜂のダニ寄生とウイルス感染率の実態調査推進委員会

（新型コロナウイルス感染防止のため書面開催）

日 時：令和3年3月

委 員：

国立大学法人東京農工大学 名誉教授 国見裕久（委員長）

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

中央農業研究センター虫・鳥獣害研究領域上級研究員 村上理都子

福岡県中央家畜保健衛生所 技術主査 浅田研一

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純
国立大学法人筑波大学生命環境系 講師 松山 茂
愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸

オブザーバー（委託先）：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域

上級研究員 芳山三喜雄、研究員 荻原麻理、再雇用研究員 木村 澄
事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 山時丈昌

一般社団法人日本養蜂協会 主任 谷口貴春

議 事：

現地調査の報告について

蜜蜂に対するウイルス感染等実態調査事業報告について

蜜蜂に対するウイルス感染等実態調査事業報告書（案）について

事業の自己評価結果報告書について

（２）J R A 畜産振興事業監査（令和２年度事業監査）

（新型コロナウイルス感染防止のため書面による監査）

日 時：令和３年８月

監査実施者：

公益財団法人全国競馬・畜産振興会 監査室長 英賀正之

公益財団法人全国競馬・畜産振興会 調査役 岡本琢二

監査対応者：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 山時丈昌

一般社団法人日本養蜂協会 主任 谷口貴春

Ⅲ 公益目的支出計画に係る実施事業

平成 26 年 1 月 6 日の一般社団法人移行に伴い、平成 26 年 1 月 5 日の一般正味財産期末残額高 171,887 千円の財源をもって、公益目的支出計画に係る実施事業として、次の 4 事業に取り組むこととしている。

なお、計画上の完了見込みは令和 5 年 12 月 31 日。令和 2 事業年度末日における公益目的財産残額は、25,113,640 円となっている。

1. 養蜂に係る環境整備事業

蜂製品の生産振興を支援することにより、花粉交配用蜜蜂が安定供給され、農業の安定的な生産・効率化に大きく貢献するとともに、国民の食生活の向上と健康の増進に寄与することを目的とし、次の事業内容とした。

なお、実行にあたっては、緊急性の高い内容から優先的に取り組む（以下 2、3、4 の事業についても同じ）。

(1) 養蜂経営の安定（生産振興）事業等の支援

国庫補助事業、日本中央競馬会畜産振興事業等の推進と併せて、支援及び関連事項の調査等に取り組む。

① 国庫補助事業

ア. 令和 2 年度養蜂等振興強化推進事業

・全国推進事業

蜜蜂の衛生・飼養管理等の技術指導者が、蜜蜂飼育者に対して指導する衛生・飼養管理技術としての消毒技術及びダニが原因となる疾病に関する衛生管理技術の普及を目的とした養蜂技術指導講習会を、令和 3 年 1 月 28 日に青森県でリモート開催した（前年 12 月 2 日に広島県、12 月 11 日に鹿児島県でも開催）。なお、1 月から 2 月に開催予定であった東京都、三重県、熊本県においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため講習会開催を中止した。また、3 月に第 3 回養蜂技術指導推進委員会を書面により開催した。

事業により作成された『養蜂技術指導手引書Ⅴ「養蜂における衛生管理ダニ防除技術 再改訂版」』及び『「はちみつの瓶詰等の製造における HACCP 導入の手引書」と「蜜蜂の採蜜・衛生管理台帳」』は、都道府県畜産課及び日蜂協会会員へ配布し、ホームページにも掲載した。

イ. 令和 3 年度養蜂等振興強化推進事業

・全国公募

令和 2 年度に引き続き、令和 3 年度も当該事業に日蜂協が応募し、採択された。本年度は、「蜂群配置の適正化と蜜源植物の維持・拡大」「花粉交配用蜜蜂の安定供給」「飼養衛生管理技術の向上」等について、以下の事

業を実施することにより問題の解決を図り、もって、養蜂産業の発展に資することを目的とした13事業を実施する。

・地域公募

a. 蜂群配置調整適正化支援事業（農林水産省畜産振興課担当）

都道府県、養蜂家等から構成される協議会が蜂群配置調整の適正化等に向けた環境整備のため、①検討会議の開催、②蜜源植物の植栽・管理、③蜜源植物の植栽状況等の実態把握、④蜜源植物の保護・増殖推進のための普及啓発の取組を行う。

b. 花粉交配用蜜蜂の安定調達支援事業（農林水産省園芸作物課担当）

花粉交配用蜜蜂の安定調達を図るため、園芸農家と養蜂家が参画して検討会を開催し、協力プランの作成や、花粉交配用蜜蜂の安定確保のための技術実証、マニュアルの作成、講習会の開催等を支援する。

なお、日蜂協ではできるだけ各都道府県会員団体に応募していただきたいと考え、各都道府県における協議会の設立及び公募開始について会員団体宛に通知し、日蜂通信にも掲載した。

② 日本中央競馬会畜産振興事業（JRA事業）

ア. 令和2年度蜜蜂のダニ寄生とウイルス感染率の実態調査事業

ミツバチヘギイタダニ及びダニ寄生による蜜蜂のウイルス感染についての実態調査を行う事業を実施した。

第2回事業推進委員会は、新型コロナウイルス感染防止のため書面による開催とし、事業結果の報告及び自己評価等について検討した。また、事業報告書を作成して都道府県畜産課等行政機関及び日蜂協会員団体へ配布し、ホームページにも掲載した。

(2) 養蜂経営安定

後継者育成対策として、全国養蜂青年大会や各ブロックの養蜂青年部で開催する研修会等を支援する。

① 後継者支援

青年部育成費として、1ブロック当たり55千円を支援した。

② 経営継続補助金

新型コロナウイルス感染症の影響を克服するために、感染拡大防止対策を行いつつ、販路回復・開拓や事業継続・転換のための機械・設備の導入や人手不足解消の取組を総合的に支援することによって地域を支える農林漁業者の経営の継続を図るために、令和2年度第2次農林水産関係補正予算において予算措置された。この補助事業は、全国農業会議所を事業実施主体として事業が公

募されたが、支援機関による伴走支援が必須となっていることから、日蜂協は全国農業会議所と契約を結び支援機関となり、補助金の申請者である協会の会員構成員が作成した申請書を確認し、「支援機関確認書」の発行事務などを行った。

(3) 養蜂振興情報提供

パンフレットやホームページ等を利用して、蜜蜂の適切な飼養管理技術、病虫害対策や園芸農家での適切な花粉交配用蜜蜂の取扱による蜜蜂の損耗防止技術等の養蜂振興に関する情報を提供する。

① 食品衛生法の一部改正する法律の施行

食品衛生法の一部改正により、令和3年6月1日以降、原則としてすべての食品等事業者がHACCPに沿った衛生管理に取り組むこと及び営業届出をすることになったことから、日蜂通信(令和3年3月25日及び5月25日発行)に掲載し食の安全のための周知に努めた。

なお、令和2年度養蜂等振興強化推進事業の養蜂技術指導講習会において「はちみつの瓶詰め等の製造におけるHACCP導入の手引書」等の講義を行い、周知に努めた。

2. 蜂病・薬害対策

蜂病・薬害対策等、蜜蜂の生命・健康を守ることへの支援を行い、蜜蜂の損耗を防止することにより蜂製品の生産拡大と花粉交配用蜜蜂の安定供給に寄与することを目的とし、次の事業内容とする。

(1) 蜂病及び薬害の研究・検査・予防

① 蜜蜂被害事例調査への協力

農林水産省の「蜜蜂の農薬被害事例に関する調査・報告」が平成27年度で終了し、「蜜蜂被害事例調査(平成25年度～27年度)の結果及び今後の取組について」の公表があった。その後も農薬の関与が疑われる被害事例について、継続して平成28年度、29年度、30年度、令和元年度、2年度と調査が行われてきた。

令和3年度も農林水産省消費・安全局農産安全管理課長及び生産局畜産部畜産振興課長より令和2年度と同様の協力依頼通知(令和3年6月24日付)があったので、農薬によると思われる蜜蜂被害が発生した場合は、都道府県の畜産部局及び農薬指導部局(その所属又は関係する部署・出先機関)に連絡し、その後の対応は、行政機関の指示に従うよう都道府県団体に協力依頼(令和3年7月2日付)した。(死虫の分析の判断等は、各都道府県畜産担当部局が行う)。

また、同時に、日蜂協へも『蜜蜂被害報告書』にて連絡をするよう、会員へ通知した。

② 2021 年度農薬工業会蜜蜂訪花調査事業

農薬工業会より 2021 年度農薬工業会蜜蜂訪花調査事業への試料提供の協力要請があったので、10 名の養蜂家へ協力を要請した。

③ 松くい虫防除による蜂群の危被害対策

本年度の松くい虫防除事業の実績は次のとおりである。

◎令和 3 年度（計画）

防除実施面積（全国）…………… 12,294ha（12,081ha）

（ ）内は前年度確定実績（農林水産省ホームページ「農林水産航空事業」より）

(2) 薬剤対策

蜂病に対する予防薬・治療薬の開発や、薬剤実用化により蜜蜂の損耗防止に役立つこととし、当面は腐蛆病予防薬及びダニ駆除剤等に取り組む。

① ダニ駆除剤等について

ダニ駆除剤等については、令和 3 年度養蜂等振興強化推進事業において「総合的病害虫管理技術構築促進事業」、「ギ酸及びシュウ酸実用化促進事業」、「炭酸ガスによるダニ防除技術実用化事業」及び「ダニが産生または知覚する情報化学物質特定試験事業」を活用してミツバチヘギイタダニの防除方法の構築等に取り組む。

② 腐蛆病予防薬使用後の追跡調査

平成 3 年以降のみつばち腐蛆病発生状況は下記のとおりである。

年度	発生群数	年度	発生群数
3	547	19	280
4	391	20	372
5	546	21	266
6	657	22	96
7	752	23	175
8	400	24	127
9	511	25	230
10	238	26	168
11	350	27	130
12	200	28	89
13	470	29	74
14	710	30	135
15	167	令和元	104
16	247	令和2	127
17	320	令和3	110
18	247		

※令和 3 年度の発生群数は、10 月末現在
 (農水省ホームページ「監視伝染病の発生状況」より)

(3) 衛生対策

器具・機材の消毒や蜂場の衛生対策を実施することにより、蜜蜂の損耗防止に寄与する。

① 微酸性電解水による器具・機材の衛生対策について

令和3年度養蜂等振興強化推進事業において、養蜂技術指導手引書等を用いた微酸性電解水による器具・機材の衛生対策の技術指導方法等の講習会を三重県、熊本県において開催した。なお、東京都は令和4年2月に開催予定。

3. 蜂製品の消費者安定供給事業

農業・食料・環境等の観点から、蜂製品の貢献・重要性について国内及び世界の蜂産品関係団体・消費者団体・研究機関等との交流等により情報を収集し、また、広く養蜂家等に対し情報を提供することにより、蜂製品の安定供給と消費拡大に寄与する。

(1) 蜂製品の分析

① 蜂蜜中の残留農薬モニタリング

蜂蜜中の残留農薬モニタリングは、同様の条件で複数回実施することにより、長期的な動向が把握できることから、前年と同様、会員が生産している蜂蜜について、頻出する残留農薬の把握及び残留農薬基準値設定に関する基礎資料として、蜂蜜に残留する可能性のある200項目以上の殺虫剤及び殺菌剤等についてモニタリングを実施した。

② 農薬成分イミダクロプリド及びクレソキシムメチルモニタリング

令和元年8月に東京都にあるアンテナショップ「香川・愛媛せとうち旬彩館」で販売した蜂蜜（みかん）からイミダクロプリドが検出され自主回収となったことを受け、蜂蜜中のイミダクロプリド残留農薬基準値設定に必要なデータを収集するためのモニタリングを実施した。

また、クレソキシムメチル（殺菌剤に含有）について、はちみつ中の農薬残留基準値設定の要望があることから、イミダクロプリドのモニタリングに加えクレソキシムメチルのモニタリングも実施した。

(2) 養蜂関係団体との意見交換

国内・国外の養蜂関係団体との意見交換により、最新の養蜂・蜂製品に関する技術情報、規格等の情報の収集及び提供を行う。

① アピモンディア（世界養蜂協会連合会）

2021年度もアピモンディアへ会費の支払いを行った。なお、2021年にロシア・ウファで開催予定だった第47回アピモンディア総会は、新型コロナウイルスの影響により2022年の開催に変更された。また、第48回は、チリ・サンチャゴで開催される予定。

- ② スロベニア国大使館主催「Bee・気候変動イベント」
12月10日に開催され、羽佐田副会長、沖事務局長、岩橋職員が参加した。
- ③ 一般社団法人全国はちみつ公正取引協議会青年部と意見交換
12月10日に開催され、羽佐田副会長、柳下副会長、山時常務理事、沖事務局長が参加した。

(3) 消費者団体等との意見交換

- ① 蜂蜜の品質向上及び蜂蜜の普及を促進する共進会への支援
会員団体からの要請により、蜂蜜の品質向上と消費拡大のための品評会において、優秀な出品物に対して「日本養蜂協会会長賞」を授与した。
第34回福島県はちみつ品評会（8月30日）
第9回青森県はちみつ品評会（10月12日）

4. 蜜源・蜜蜂安定供給対策事業

蜜蜂の安定供給のため、蜜源の病虫害防止、保護増殖、蜜蜂の適正管理等により限りある蜜源の有効利用を促進し、蜂製品の安定供給に寄与する。

(1) 蜜源保護増殖対策

蜜源の保護増殖を行うことにより、養蜂振興と蜂製品の安定供給を図る。

- ① レンゲ、ヘアリーベッチ、菜種等の斡旋について
無償配布用蜜源植物として菜種（キザキノナタネ）種子（1袋25kg）、ヘアリーベッチ種子（1袋20kg）を希望する団体には、1団体当たり4袋を上限に、ビービーツリー苗木を希望する団体には、1団体当たり10本を上限に無償で配布することとした。その結果、菜種は29団体から58袋（1,450kg）、ヘアリーベッチは32団体から75袋（1,500kg）、ビービーツリー苗木は12団体から85本の希望があった。
また、蜜源確保のためレンゲ、ヘアリーベッチ、菜種（キザキノナタネ）、ナナシキブ（暖地向け菜種種子）、ウインターベッチ（寒冷地向けヘアリーベッチ）種子、ビービーツリー苗木の斡旋を行った。

IV 養蜂関連物資斡旋事業

1. 養蜂飼料の合理的価格設定による定期的配給の実施

(1) 養蜂飼料価格安定基金について

養蜂飼料の価格が急騰した際に養蜂家の経営の圧迫を最小限に抑えるための基金を平成 17 年度に設立し、平成 23 年度から基準価格を 190 円/kgとしたが、前年まで発動実績がなく、令和 3 年の価格は 125 円/kg～144 円/kgで推移し、発動はされなかった。

(2) 養蜂飼料の配給実績

①令和 3 年建勢飼料実績	25,780 袋	516 t	前年対比	97.6%
令和 2 年	26,406 袋	528 t	前年対比	86.0%
令和元年	30,707 袋	614 t	前年対比	103.4%
②令和 3 年越夏飼料実績	28,701 袋	574 t	前年対比	101.0%
令和 2 年	28,418 袋	568 t	前年対比	89.5%
令和元年	31,746 袋	635 t	前年対比	107.9%
③令和 3 年越冬飼料実績	38,765 袋	775 t	前年対比	87.8%
令和 2 年	44,133 袋	883 t	前年対比	96.7%
令和元年	45,629 袋	913 t	前年対比	110.8%
④令和 3 年計	93,246 袋	1,865 t	前年対比	94.2%
令和 2 年計	98,957 袋	1,979 t	前年対比	91.6%
令和元年計	108,082 袋	2,162 t	前年対比	107.7%

2. 新規の取り扱いについて

以下について、新しく取り扱いを開始した。

(1) 東京九州フェリー 横須賀港～新門司港

V 組織強化事業

1. 日蜂通信の発行

会員への活動状況及び養蜂に係る情報提供の為に取組んでおり、年 10 回の発行を行った。

2. 各種会議の活動の展開

総会、理事会、委員会等の組織活動に積極的に取り組んだ。

3. 組織強化のための会員加入組織率の向上

(1) 施設賠償等総合補償保険

蜜蜂に関する保険は、日蜂協が長年にわたって実施しているこの保険以外にはなく、新しく作ることは難しい。

なお、この保険は一般社団法人日本養蜂協会が保険契約者となる団体契約であり、加入できるのは、加入申込人・記名被保険者が日蜂協会員に限られる。また、以前より会員から要望のあった蜂箱単独の盗難被害、台風・水災等による自然災害（地震災害は除く）を補償するプランも新たに加えられた。

- ① 蜂箱の所有・使用・管理に起因する賠償責任（施設所有（管理）者賠償責任保険）
- ② 製品の製造、販売に起因する賠償責任（生産物賠償責任保険）
- ③ 養蜂箱に生じた偶然な事故による損害補償（動産総合保険）
- ④ 令和 3 年度の加入者は 148 件（2 年度は 138 件）

(2) 表彰行事の実施

永年養蜂業界の発展に貢献された方に対して、第 80 回通常総会（令和 3 年 2 月）の場において表彰規程に基づき、会長感謝状と記念品を贈呈した。

【中央表彰】

奈良県：横田昌久氏 元日蜂協理事

【地方表彰】

青森県：小嶋 登氏 現県副会長

岩手県：初貝綱吉氏 元県理事

茨城県：小磯蔵雄氏 元県協会長

群馬県：齋藤孝一氏 元県副会長

埼玉県：松本文男氏 現県理事

和歌山県：山本承弘氏 元県協会長

島根県：廣江 浩氏 現県理事

広島県：重森健二氏 元県理事

山口県：三戸基文氏 元県組合長

佐賀県：故野方泰弘氏 元県副組合長

長崎県：永田好紀氏 現県理事
熊本県：和田慎一氏 現県理事

【会長感謝状】

中村公光氏（熊本県：令和元年度春旭日双光章受賞）

VI その他の事項の取り組み

1. 農林水産省との打ち合わせについて

養蜂に関わる問題点等について、農林水産省担当部局と協議を重ねた。

- (1) 2月29日 生産局畜産部畜産振興課及び株式会社アジア航測とウェブによる打ち合わせ（山時常務）
蜜源地図データの作成について
- (2) 3月26日 養蜂関連データの蓄積・活用に関する情報交換会【生産局畜産部畜産振興課主催】（羽佐田副会長（ウェブ）、柳下副会長、山時常務）
- (3) 4月2日 生産局畜産部畜産振興課訪問（柳下副会長、山時常務）
- (4) 4月15日 消費・安全局農産安全管理課農薬対策室訪問（柳下副会長、山時常務）
はちみつ中の残留農薬基準値について
- (5) 5月31日 消費・安全局農産安全管理課農薬対策室訪問（柳下副会長、山時常務）
はちみつ中の残留農薬基準値について
- (6) 6月21日 消費・安全局動物衛生課及び畜産振興課訪問（柳下副会長、山時常務）
ミツバチの家畜衛生条件等について
- (7) 6月28日 生産局畜産部畜産振興課担当官日蜂協事務局来訪（山時常務）
令和3年度養蜂等振興強化推進事業等について
- (8) 7月20日 消費・安全局農産安全管理課農薬対策室来訪（柳下副会長、山時常務、
沖事務局長）
はちみつ中の残留農薬基準値について
- (9) 9月1日 畜産局畜産振興課課長等日蜂協事務局来訪（山時常務、沖事務局長）
令和3年度養蜂等振興強化推進事業等について
- (10) 11月11日 畜産局畜産振興課課長補佐日蜂協事務局来訪（沖事務局長）
令和4年度養蜂等振興強化推進事業等について
- (11) 12月24日 畜産局畜産振興課訪問（柳下副会長、山時常務、沖事務局長）
養蜂振興法等に関する一般社団法人日本養蜂協会理事会の意見について

2. 自由民主党養蜂議員連盟関係打合せ・会議

令和2年に改組して新たに設立された養蜂議員連盟について、総会への参加及び関係者と打ち合わせ等を行った。

- (1) 7月28日 自由民主党本部政務調査会及び農林水産省畜産局畜産振興課と打ち合わせ（柳下副会長、山時常務、沖事務局長）
- (2) 7月29日 森山養蜂議員連盟会長を訪問（柳下副会長、山時常務、沖事務局長）

- (3) 7月29日 藤木養蜂議員連盟事務局長を訪問（柳下副会長、山時常務、沖事務局長）
- (4) 7月29日 大島会長を訪問（柳下副会長、山時常務、沖事務局長）
- (5) 8月4日 自由民主党養蜂議員連盟総会出席（羽佐田副会長、柳下副会長、山時常務、沖事務局長）